

境内は百合の季節です。オレンジ色の鬼百合が満開になりました。今週には、大輪の鹿の子百合も咲き出すでしょう。百日紅ももうすぐです。いよいよ、お泊まり保育から始まる、夏期学校、神学生の夏期派遣、キャンプ、聖会、夏が始まります。

### 単純明快なたとえ話

先週の「不正な管理人のたとえ」は、難易度Cでしたが、それに続く今朝の「金持ちとラザロ」の物語は、古今東西、誰もが理解できるお話です。贅沢三昧の暮らしを続けた金持ちが陰府で苛まれ、病と貧さの中に一生を終えたラザロは、天国でアブラハムに迎えられた、というストーリーは、昔からお盆にお寺で説法される極楽と地獄のお話に、ある意味似ています。

今が良くても、その先がある、見えるものが全てではなく、見えない世界にも自分の存在は関わっている、そんなことに気づかされます。これは信仰の世界の、大原則と言えるでしょう。ああそうなのか、と納得できれば、このイエス様のたとえなしは私たちにとって、すぐに役立つメッセージとなります。

### 目標を目指して走る人生

ルカ 15～19章は、お金にまつわる話が続きます。経済学セミナーの内容のようです。イエス様と共に歩む、人生の時間の中で、様々な出来事が起こる時、どう対処したら良いかのヒントがたくさん記されています。

そのような視点で見れば、今朝の話は「大きな目標設定を定めなさい」という問いかけだとも言えるでしょう。イソップの「アリとキリギリス」のように、信仰生活という目に見えない世界においても、将来設計が必要なのです。金持ちは、こんな苦しみ待ち受けているなら、こんな人生は歩まなかった、と悔やみました。しかし、時すでに遅し、運命の時がきてからでは、時間は巻き戻せません。

ダイナミックなストーリー展開を味わいながら、いくつもの有名な物語が頭に浮かんできました。「マッチ売りの少女」や「フランダースの犬」、そして「クリスマス・キャロル」などです。どの物語にも、運命の歯車がかチッと音を立てる瞬間があります。次のページがめくられるとき、お婆さんに笑顔で迎えられる少女や、光に包まれるパトラッシュと少年、そして夢から目覚めるスクルージの姿があらわれます。

私たちの人生はどうでしょうか。ページはまだ先があります。今開いているページが全てではないのです。運命の鍵は、信仰という希望です。そこに幸せが待っていると思ひ描くためには、信仰による歩みが必要です。期待を持ってページをめくるために、祈りを持って目標を定めましょう。そしてそこに向かって歩みましょう。